

2025 年度 夏合宿__縦走 報告書

目次

- 02～ 剣-穂高縦走
- 05～ 表銀座-焼岳縦走
- 10～ 後立山連峰縦走
- 15～ 南ア北部縦走
- 19～ 北鎌縦走

構成について

各縦走隊ごとに行動記録と各人の反省を載せています。

（縦走名→参加者→行動記録→個人毎の反省）

参加者について

CL は名前の横に（CL）と記載。

参加予定だったものの参加できなかった者については（不参加）と記載。

【8月】劔-穂高縦走 反省・報告書

参加者

3年：津田（CL）

行動記録

※本来の計画と異なる行程となった。（経由地のみ変更、ルートは変わらず。）

計画；雷鳥沢→スゴ乗越小屋→雲ノ平山荘→槍ヶ岳山荘→穂高岳山荘→西穂高口駅

実際；一の越山荘→スゴ乗越小屋→太郎平小屋→双六山荘→北穂高小屋→西穂高口駅

8/13（水） 曇り

13:30 室堂 発

14:10 一の越山荘 着

19:00 就寝

入山日（0日目）。一日中曇っており、夕方ごろからガスも出てきた。富山駅から室堂に向かい、室堂から山行を開始。特に問題なく一の越山荘に到着、素泊まりした。一の越山荘はWi-Fiあり、宿泊者であればネット利用可能。水道あり、こちらも宿泊者であれば利用可能。夕食。就寝前、計画の変更を決定。就寝。

8/14（金） 濃霧

04:00 起床

05:15 一の越山荘 発

05:35 富山大学立山研究所

06:00 鬼岳（東面）

06:30 獅子岳

07:05 ザラ峠

07:35 五色ヶ原山荘

08:05 鳶山

09:15 越中沢岳

10:45 スゴ乗越

11:20 スゴ乗越小屋 CS 着

18:00 就寝

1日目。朝から濃い霧が出ていたが、特に支障なかったため行動。日中も濃霧。特に問題なくスゴ乗越小屋に到着。到着時はテント数も少なかったが、時間経過とともに増加、夕方にはあまり空きスペースのない状況になっていた。水場（有料）は枯れていなかった。電波あり、ネット利用可能。夕食前、再度計画の変更、決定。夕食、就寝。

8/15（土） 晴れ→霧

03:55 起床

05:10 スゴ乗越小屋 CS 発

05:55 間山

07:15 北薬師岳

08:00 薬師岳
08:35 薬師岳山荘
09:40 太郎平小屋 CS 着
10:20 太郎平小屋
10:40 太郎平小屋 CS
20:30 就寝

2日目。起床、朝食、多少遅れて出発。朝は晴れ。しいて言えば太郎平小屋 CS 到着直前の下り道は沢を下るような感じで多少危険だったが（おそらく水量が増すとともに通れない？）、特に問題なく太郎平小屋 CS に到着。到着時すでにある程度の数のテントがあり、夕方には CS がいっぱいになった。11:00 までは CS 横の建物でのテント泊の受付は行っていないため、テント設営後に太郎平小屋まで移動して受付をしてもらった（おそらく CS で待っていてもよかった）。水場（無料）は枯れていなかった。電波なし、小屋側の稜線に上がれば少し入るが、ネット利用には不十分。夕食。周囲の騒がしさのせいなのか遅くなったが、就寝。夜中も何度か目を覚ます。

8/16 (日) 晴れ

03:30 起床
05:05 太郎平小屋 CS 発
05:30 太郎平小屋
07:00 薬師沢小屋
09:20 雲ノ平小屋
12:00 三俣山荘
14:10 双六小屋 CS 着
??:?? 就寝

3日目。晴れ。肌寒さで目を覚ましたので、そのまま起床することにした。朝食、出発。朝のうちは調子が良かったが、雲ノ平山荘を通過する前の辺りから疲労感に襲われ、足取りが重くなるも、双六山荘（テント場の利用も要予約）に到着。CS は半分ほど埋まっていた。続々とテント数は増え、夕方にはかなり賑やかになった。双六山荘入り口前に飲料水提供用の蛇口あり、無料。電波通じず。夕食、就寝。この日も寝つき悪く、就寝は遅くなった。

8/17 (月) 霧&風→晴れ

03:20 起床
04:50 双六小屋 CS 発
08:00 槍ヶ岳
09:00 中岳
09:55 南岳
11:05 長谷川ピーク
12:35 北穂高小屋 着
12:45 北穂高岳
12:55 北穂高小屋 CS
??:?? 就寝

4 日目。03:00 に起きようと考えていたが、寝坊。朝食をとりつつ暖をとっていると、結局 05:00 頃の出発となった。この日は昨日ほどの疲労感はなかった（順応？）。千丈乗越までは風も強く、小雨のような霧の中で、かなり冷え込んだ。槍ヶ岳に着くころにはある程度ガスは晴れ、天候は見通しがよくなっていった。時間切れ（日没）を懸念して槍ヶ岳山頂には寄らず。特に問題なく（むしろ予想より早く）北穂高小屋に到着。北穂高小屋はテント泊を含む宿泊者は飲料水提供・トイレ（どちらも小屋にある）の料金が無料だった。少し離れた CS にテントを設営、テント数はかなり少なかった。CS でも弱い電波はある、しかし、ネット利用は厳しい。夕食、就寝。やはり寝つき悪く、いつ寝ついたのかは不明。

8/18 (火) 晴れ

03:00 起床

04:45 北穂高小屋 CS 発

06:05 涸沢岳

06:15 穂高岳山荘

06:55 奥穂高岳

07:45 ジャンダルム

08:40 天狗のコル

09:30 間ノ岳

10:25 西穂高岳

11:10 西穂独標

11:50 西穂山荘

12:35 西穂高口 着

5 日目。朝から晴れており、昼頃には暑ささえ感じた。未明に起きたがテントは濡れていなかった。朝食後、しばらくグダグダしたが、出発。ジャンダルム直下で多少迷い、間ノ岳までのルートをおそらく一か所間違えたが、他は問題なく西穂高岳までの危険地帯は抜けた。この途中、梅野隊を追い越した。その後一気に足取りが重くなったが、昼過ぎにロープウェイ駅に到着。臨時便のロープウェイに乗車、下山した。

反省（津田）

係反省

一人ですべての準備作業を行ったため、情報共有や統合の必要がなく、かなり楽だった。物的な準備において特に問題はなかったように思う。

個人反省

まず、計画書に関して一点。本来計画していた行程とは異なる実施内容になることそれ自体はよくあることだが、問題は、作成していた計画書上の想定範囲の外での行動が多かったことにある。例えば、2,3,4 日目の泊地である太郎平小屋・双六小屋・北穂高小屋の情報は計画書に記載していない。結果的には無事帰ってきているものの、事故があったとすれば何らかの問題が発生していたかもしれない。（特に泊地について行程が計画通りに進んだ場合に）最低限必要な事項のみしか記載していなかったことが原因。

細かい点で言えば（こちらは反省というより疑問だが）、寝つきの悪さが気になった。明らかに普段の合宿より寝つくのも遅く、何度も目を覚まし、朝も思い通りに起きられなかつ

た。周囲の騒がしさ、疲労の程度など原因はいくつか思いつくものの、今回の山行はこれまでの山行と大きく違う環境でのものではない。今後も同様の不調があるようであれば、何らかの対策を練る。

また、3日目に疲労感のピークを迎えたことについて。この時、疲労感に襲われて一気に精神的余裕がなくなった。このことを鑑みると、非常事態に関して、やはり一人の山行だと対応力が心細い。今回は特に非常事態と呼べる状況には陥らなかったものの、一人で山に赴くのであれば「いかに心身の状態を普段と違う状況に陥らせないか」がより重要になるように思う。

【8月】表銀座-焼岳 縦走 反省・報告書

参加者

2年：長谷川（CL）、梅野

1年：中桐

行動記録

8.13 水 中房温泉→燕山荘CS 午前：霧・曇、午後：霧ときどき晴

電波：樹林帯の途中は 1-2 本～圏外だった、燕山荘周辺は晴れたら繋がるが、霧の時微妙

4:00 起床

5:15 登山バス穂高駅前発・中房温泉へ

6:20 中房温泉バス停着

6:50 中房温泉登山口

7:20 第一ベンチ

7:50 第二ベンチ

8:15 第三ベンチ

8:55 富士見ベンチ

9:30 合戦小屋・スイカタイム

10:40-13:40 燕山荘

14:15 燕岳

14:40 北燕岳

15:16 燕山荘

16:00 夕食

19:00 就寝

中房温泉～燕山荘は整備された登山道で歩きやすい。燕岳周辺は稜線上でも霧が被ると電波が入りにくいことがある。予定では初日に大天荘まで行く予定だったが、標高を 1400m 上げたあとにさらに歩くモチベーションが無かったのと、燕岳を時間に追われることなく満喫したいという理由でチームメンバー3人で話し合い、燕山荘泊まりになった。

8.14 木 燕山荘CS→ヒュッテ西岳CS 終日：晴

電波：この行程上大体電波は通じる

3:30 起床

5:05 燕山荘発

7:50 大天荘

8:05 大天井岳

8:15 大天荘

8:50 大天井ヒュッテ

9:15 牛首展望台

9:35 大天井ヒュッテ

10:00 ビックリ平

11:35-13:45 ヒュッテ西岳

13:55 西岳

15:40 赤沢山
16:05 ヒュッテ西岳
16:50 夕食
19:00 就寝

初日に燕山荘泊まりにしたことで以降の予定を若干変更する。この日はヒュッテ西岳を目指した。この日は基本的に稜線上やトラバース道を歩いたが、人がすれ違うには狭い幅の登山道が続く。休憩のタイミングを時刻に頼りすぎると不便なので、時々現れる開けた場所を積極的に利用したい。

8.15 金 ヒュッテ西岳CS→南岳小屋CS ～7:00：晴れ、日中：霧ときどき晴、19:00～：
雨

電波：晴れたら大体電波は繋がるが、霧の時に不通になる。中岳では多少の霧でも電波入る

3:30 起床
5:15 出発
6:15 水俣乗越
7:40 ヒュッテ大槍
8:30-9:10 槍ヶ岳山荘
9:30 槍ヶ岳
10:05-10:30 槍ヶ岳山荘
10:55 大喰岳
11:40 中岳
13:00 南岳
13:05 南岳小屋
19:00 就寝

計画変更の恩恵で東鎌尾根をこの日の前半に歩けた。高低差のある梯子が続いたが、個人としても隊全体としても危なげな箇所は無かったように思う。槍ヶ岳山荘到着時には槍ヶ岳一帯は強風&ガスに覆われていたので、山荘で休憩し頃合いをみて槍ヶ岳頂上を訪れた。山頂直下では梯子や鎖のルートが2つあり、登る人と下る人で上手く分かれており、スムーズだった。

8.16 土 南岳小屋CS→穂高岳小屋CS ～6:00：霧、日中：晴ときどき霧

3:30 起床
5:45 南岳小屋
7:25 長谷川ピーク
7:50 A沢のコル
8:35 飛騨泣き
9:20-10:00 北穂高小屋
13:09 涸沢岳
13:49 穂高岳小屋

この日も計画変更のお陰で大キレットを行程の前半に歩くことができた。行き交うのが困難なやせた場所や岩稜帯が多いが、すれ違う開けた場所もそれなりにあった。個人的に今回の縦走を通して飛騨泣きが唯一怖さを感じる場所だった（あまり持ち手が無いので岩に打ち付

けられた鋼鉄棒を頼るのだが、抜けたらどうなるだろうと考えてしまい...)。後半の行程で疲れが溜まりつつあったのもあるが、北穂高～涸沢岳の途中でルーフアイをミスリ、下山道にちょっと突入した。あと、この後半がずっと岩場続きで結構長く感じた。

8.17 日 穂高岳小屋CS⇄ジャン偵察 ～8:00：霧、日中：晴ときどき霧

電波：穂高岳山荘周辺は圏外、小屋では繋がる

2:50 起床

4:30 穂高岳小屋

5:15-6:50 奥穂高岳

7:40-8:40 穂高岳小屋

9:15 奥穂高岳

9:35 馬の背

10:40-11:00 ジャンダルム

12:10 馬の背

12:25 奥穂高岳

12:55 穂高岳小屋

16:00 夕食

奥穂から西穂まで縦走の予定だったが、朝起きた時から濃霧と強風だった。様子を伺いに奥穂高岳には登ったが、同じく霧が晴れるのを待つ人が多い時で 10 名近くいた。自分らは

7:00 くらいまで粘ったが、この間 2-3 人がジャンダルム方面に、大体の人は前穂高方面

(下山かな?) に向かっていった。自分らは穂高縦走を目標にしていたのでこの日は沈殿にすることにした。ただ、穂高岳山荘に戻るや否や、さっきまでの濃霧と強風が嘘だったかのように綺麗に晴れたので、予報も確認しつつ、アタック装備でジャンダルムまでの偵察を行った。

8.18 月 穂高岳小屋CS→西穂山荘CS 終日：晴

3:00 起床

4:15 穂高岳小屋

5:00-5:25 奥穂高岳

5:45 馬の背

6:45 ジャンダルム

8:10 天狗のコル

8:45 天狗の頭

9:00 逆層スラブ

9:40 間の岳

11:00 赤岩岳

11:20 西穂高岳

11:40 チャンピオンピーク

12:25 ピラミッドピーク

12:50 西穂独標

13:25 西穂丸山

13:40 西穂山荘

朝から快晴で予定通り穂高縦走を行った。昨日の装備の数倍も重い荷物だったが、昨日の偵察もあって大体どういうところを通るのか実際に把握できていたので、特に問題なく進んだ。ジャンダルム以降もペースはそれなりにゆっくりだったが問題なく進んだ。逆層スラブを超えたところで長谷川が大きめのラクをしていたので、危ないなと感じた。下りのガレ場は特に緊張感もって足の置き場などを考え、注意喚起したい。西穂高岳以降はメインを終えた後だったからか無駄に長く感じた。

8.19 火 西穂山荘CS→上高地（下山） 終日：晴

05:10 西穂山荘

07:10 焼岳小屋

07:35 中尾峠

09:00 焼岳北峰

11:40 焼岳上高地側登山口

11:50 西穂岳登山口

焼岳～焼岳小屋は地面が湿っぽい泥の樹林帯をひたすら歩く。焼岳を目前にするまでは早く上高地に降りたいという気持ちでいっぱいだったが、焼岳をいざ臨むと来てよかったと思った。焼岳はさすがは活火山で噴気帯が近く、硫黄が綺麗に成長していた。登山道の目印はあるもののあまり整備されてはいないようで、噴気帯も規制線がないところもあり容易に近づくことができた。噴気帯に行くときは風向きなどみて噴気を吸い込まないように要注意。

反省（長谷川）

係反省

・医療

医療箱の中身を確認。不足分を買い出して補充した。縦走隊数に合わせて医療箱を一つ増やした。うちの隊では負傷者はおらず、医療箱の出番はなかった。ほかの隊の反省報告書を見ると、テーピングについて要望が集まっているみたい。詳しく話を聞いて検討したい。

・食料

エッセンについて。今回隊オリジナルエッセンを制作したが、最高の出来だった。羊羹、ドライフルーツ、ピスタチオは必須。

そのままでは腐ってしまう定着の食料を持ってきたこと・商品の包装の関係で一部食料が若干多めになったこと・予備日を使い切らなかったことが理由で、ほぼ毎日夜ご飯とは別に昼ご飯を作って食べた。莫大な摂取カロリーがとれた。個人的に、あまりバテなく歩けたのはそのおかげでもあるのだろうか。

・装備

奥穂ー西穂においてザイルは必要ない。

個人反省

なるべく早く到着しようという意識はなく、到着時間が遅くならない範囲で頂上などしばらく楽しんだり細かい寄り道をしたりした。しかし、山において午後は天気が崩れやすいことを考えるとなるべく早く到着するよう努めるべきだったかもしれない。

歩荷量は体感 25kg 弱→20kg 弱。食料で日に日に減っていった。

体力的なバテはあまりなかった。一方で、精神的なバテがあった。

反省（梅野）

係反省

SL：（あまり反省はしていないが）綺麗な花があったら立ち止まり、気になる石があったら立ち止まり、撮りたい絶景があったら立ち止まりと、自分の都合でメンバー二人を定期的に立ち止まらせてしまった。あと、中桐に特段役職をお願いしなかったのは反省。

食料：エッセンを完全オリジナルで作ったが、乾いたスナック菓子と湿ったようかんを合わせたことで、湿ったスナック菓子と乾いたようかんができてしまった。ようかんは行動食に持って来いだがエッセンの中に入れるのではなく個包装を所持するように変えた方がいい。

交通：レンタカーは便利

個人反省

天気にも恵まれ、縦走を完遂でき楽しく最高な縦走だった。何より自分が隊を計画し引っ張る側の人間として携わったことで、自分の考えるように物事を進められたのは大きい。あわせて自分の実力を把握できたのはよかった。結果的に6泊7日の縦走となり、行程に余裕があったからか下山後も疲れはそこまで溜まっておらず、帰るのが名残惜しく感じられた。あと3泊くらいする心身の余裕はあるように感じる。次にペースについて、隊を作るということはペース・体力は最も遅い人、無い人に合わせる必要がある。そもそも山を早く歩きたいわけではないし、十分なバッファを設けることで見える景色、心の余裕があるのだと感ずることができた。

最初は縦走の重い装備で穂高縦走をすることに不安があったが、実際にやってみるとペースはゆっくりになれども、特に問題なく歩けることが分かった（天気が良くて味方してくれたのはあるが）。穂高縦走でなるべく荷物を軽くしたいという思いから、予備日も考慮しながらも食料はできる限り食べて無くせるようにした。そのなかで何度もテントで昼食を作るというイベントを生み出してしまったが、メンバーには好評だった。

反省（中桐）

係反省

係をしていない。

個人反省

ザックが軽かった（18～8キロ程度に。）のでもう少しペースを上げて良かった。3日目あたりから岩稜帯で足場が不安定となり、ペースが非常に落ちてしまい、隊のペースを遅めてしまったのが反省だ。岩稜帯歩きが上手くできずに足首を痛めてしまった。歩きやすい岩を見つけて歩くトレーニングをしたい。あとは浮き石に関して、大きな石でも浮く可能性があることを学べた。

【8月】後立山連峰縦走合宿 反省・報告書

参加者

2年：木下（CL）、増崎（不参加）

1年：江口、山口

行動記録

14日（晴、風弱し）

06:00 雷鳥沢テント場発
06:30 室堂バスターミナル
07:45 扇沢へ向け移動開始
09:15 扇沢登山口
10:14 ケルン過ぎ
11:20 ガラ場手前
12:11 種池山荘（江口熱中症のため、1時間休止
12:55 発
13:37 爺ヶ岳南峰
14:02 赤岩尾根への下り
14:40 冷池山荘着

扇沢は死ぬほど暑い。そんな中、3時間ほどかけて標高を 1000m 以上一気にあげたお陰で、江口が熱中症になってしまった。前日まで室堂の涼しい気候にいたわけだし、順応にもっと気を使うべきだったか。お盆の需要でアルペンルートが増便され、1時間ほど予定より早く登山口につけたのは僥倖。種池山荘からは大幅にコースタイムを巻いて冷池山荘へ到着。種池、冷池山荘ともども 1L200 円である。テント泊者は 1L 無料になる。宿泊簿を持っていくとさらに 500ml のタダ券をくれる。

15日（晴曇り、風多少つよし）

04:00 テント発
04:37 布引山
04:40 小休止
05:30 鹿島槍ヶ岳南峰
05:52 北峰分岐
07:13 キレット小屋（20分休憩）
08:33 ロノ沢コル
09:54 五竜前衛峰
10:45 五竜本峰
11:40 五竜山荘着

昨日と同様コースタイムを大幅に巻いてテント場に到着。しかし、一年生はかなり消耗している模様。第一の核心部分である八峰キレットは気づいたら過ぎ去っていた。もちろん、簡易ハーネスは装着した。南から這い上がる五竜岳は意外と陰しい。道が結構分かりにくいので、ガスされると少々面倒だ。3月以来の五竜はまったく様相が異なっていた。へろへろになりながらテント場へ。五竜のテント場は狭く、トイレが綺麗。充電も出来る。しかしなが

ら、水が高い。相場 1L200 円と思うが、五竜は 500ml あたり 200 円、沸騰済みであると 300 円である。しかも、完全予約制であれほど予約取れなかったというのにテント場の埋まり具合は 6 割くらいである、あの苦労はなんだったのだろうか。

16 日 (曇り)

03:03 五竜山荘発
03:37 大黒山前最低コル
04:42 唐松 牛首付近
05:12 唐松山荘
05:35 唐松岳
06:15 不帰二峰南峰
07:18 一峰？
08:37 天狗ノ大走り頂上付近
09:24 天狗山荘 (20 分休止)
10:35 白馬鑓ヶ岳
10:40 小休止
11:34 杓子-白馬コル
12:20 白馬頂上山荘

どうも午後から天気が微妙かつ、唐松までしばらく広い稜線歩きであることもあって 3 時発を試してみた。コースタイムを巻きすぎて、曇天も手伝って唐松付近の岩稜帯を暗い中行動する羽目になった。あと 30 分遅くすべきだった。この日は非常にきつかった。不帰の嶮は名前のとおり荷物と一年 2 人をつれた状態では厳しく通過に時間を要した。そこからの天狗の大走りの登りには死に体であった。そこからも意外と長く、天狗山荘で一泊すべきだったと後悔したものだ。次の日の行動時間の短さを考えても、白馬までいかないで良いだろう。天狗も白馬も水が無料である。

17 日 晴強風

04:20 テント場発
04:52 白馬山荘
05:06 三国境手前
06:05 雪倉岳避難小屋手前
06:47 雪倉岳
07:46 赤男山前
08:35 白馬水平道途中
09:46 朝日岳山荘

風が非常に強い。白馬岳は雲に覆われ何も見えず、今合宿の最高点を過ぎた。今日から一年生に先頭を歩かせる。雪倉岳は台風なみの風が吹き荒れ、山頂付近は立ち止まりながらではないとまともに進めなかった。朝日小屋付近では樹林帯が久しぶりに現れる。行動時間わずか 5 時間半。この日は休息日となった。暑かったが。読書と昼寝がはかどった。

18 日 晴 風弱し

04:10 テント場

04:45 朝日岳
05:08 長樺山手前
06:22 黒岩平付近 (江口足首応急処置のため 20 分)
07:34 黒岩山
08:30 1612.2 前コル
09:20 犬ヶ岳前水場 北又の水場にて給水
10:18 犬ヶ岳
10:22 樺海山荘 (休憩 1 時間)
11:40 発
12:40 1209 のコル 黄蓮の水場にて給水
13:55 下駒ヶ岳
14:25 1022m 付近
15:15 白鳥山着

灼熱。昨日までの強風は嘘のようになりをひそめ、蒸し暑い樹林帯の稜線を進む。樺海山荘で 1 泊する予定であったが、当日白鳥山まで足を伸ばすこととした。暑さでバテかけていたが、樺海山荘で 1 時間休止した後、白鳥山まで足を伸ばすこととした。下駒ヶ岳の急登とスズメバチ、白鳥山の登り、暑さに翻弄されつつ、15 時過ぎには白鳥山に着いた。

このあたりから水の取得が死活問題となる。樺海山荘前の北又の水場は流れはあるものの、水量は少なく、蛇口を一回ひねった程度である。生で飲むのは少し躊躇するが、大方大丈夫であろう。今回は大事をとって濾過した。犬ヶ岳北方の黄蓮の水場は小さな沢であり、水量十分、2L ペットボトルが沈められた。これも、我々の定着をつぶした雨のお陰だろう。

19 日

03:57 白鳥山発
04:43 シキ割給水
05:40 坂田峠
06:34 二本松峠まえ車道出会
07:05 入道山
07:21 416 ピーク
08:11 親不知海拔 0m

相も変わらず暑かったが、昨日のお陰で早く下山できた。水量が心配であったシキ割は北又の水場と同じくらいの水量。十分給水できた。今日も下りである。樹林帯をせっせと歩き、親不知へ。海はどんより鈍い色。しかし、あの階段を見ると思わず叫ばずにはいられない。こんにちは、日本海。あばよ、樺海新道。二度と来るか。

親不知駅まで 1 時間程歩道なしの車道横を歩かねばならない。暑いし、怖い。頼みの温泉は定休日。ついていない。仕方がないので、2day パスが使える越中宮崎まで移動し、そこで海水浴客向けのコインシャワーで汗のみ流し、めしを食った。後輩達はタラ汁なるものを食っていた。富山まで 3 人一緒に移動し、そこで解散した。

反省（木下）

係反省

・CL

結構うまくやったのではないかな。SLが背中の骨折で不参加、歩荷の弱い1年2人を連れてキレット2つの実績解除、5泊6日を大きな怪我なくやりきったのだから。

考えるべきだった事として

2年が一人抜け、1年2人、2年1人となった時点で、他隊から人員を引き抜くことを考えるべきだった。当時、私は自信があったし、実際問題なく行けたから良かったが、危険な状態であることは間違いない。今後、人員が増減した場合、計画の再検討はすべきだろう。

・判断の失策等

1,歩荷量

定着の早期終了で他の隊は縦走を早めて入山していたが、テント場の予約が必要なわが隊は予約が取れるまで沈殿を余儀なくされた。一泊富山で過ごした後、雷鳥沢のテント場で過ごす腹積もりであった。また、食料費を浮かすため、定着の食料を拝借していたのだが、夕方遅くに予約が突然取れたため、室堂から余りの食料を送り返すことも出来ず、そのまま縦走に突入した。水の量や、食料を私が多めに持つことで対策したものの、1年生は歩荷が弱かったもので、できれば避けたかった。

2,18日の行動

テント場を犬が岳山頂の梅海山荘にする計画であったが、余りの暑さに明日が心配になり、以下のことを鑑みた結果、一つ先のテント場の白鳥小屋まで移動した。

- ・曇ってきたこと（日光がさえぎられる）
- ・ゆっくりのコースタイムで4時間
- ・16時前には白鳥小屋につく事
- ・明日さらに標高が下がる中、この炎天下を正午近く山中をさまよう暑さで熱中症等発症しかねない事
- ・前日は休息を取れた事

しかし、前日休息だったとはいえ、突然の暑さでばてていたし、生き急いだ感がある。無理に白鳥小屋にしなくても良かったか。

・食料

今回増崎に一任した。もっと私がかかわるべきだった。カロリー不足らしくピーナッツやらなんやらが追加され、かさが増した。でもカルパスをいれたのは英断だと思う。中華井のうまさには脱帽。絶対1000kcalは必要なのだろうか。もっとやりようがあるように思われる。

・装備

私一人でほとんどやった。1年生に仕事を回す余裕がなかった。別の機会にやってほしい。簡易ハーネスの作り方のみ山口に事前学習させた。

・交通

私がやった。帰りの試算のみ山口にやってもらった。下山というまさかの事態で再入山する羽目になったこと以外、つつがなく進んだ。

・医療とリスクマネジメント

医療はある程度江口に任せた。あとはリスクマネジメントのやり方を変え、基本的なリスクをあらかじめ洗い出し、全員で対策等を出し、その結果を計画書に添付することである程度全員に関与させた。また、地形特有のリスクも地図に直接書かせることで把握した。この方式がよいと思う。医療の研究について江口の働きは素晴らしかった。

- ・一年生の怪我について

やはり一年生のマメや擦れといった怪我が目立つ。山口は自前で医療キットを持ってきていた。あらかじめ怪我しやすいなら、自前で持ってきてもらうのが確実だし、推奨したい。加えて、テーピングは非伸縮の固定用をしっかりと装備したい。今回、江口の足首固定に使用したが、接着力も強度も、長さも足りず、結局三角巾の仮固定で歩く羽目になった。出来れば、指用の細いやつと太いやつがあると尚良いだろうが、最低でも細いやつだけはしっかりと装備したい。

個人反省

瞬間接着剤を持ってきた私は天才だと思う。これで水漏れしたプラティパスを修復し、わが隊の水不足を未然に防げた。

帽子と防寒着をなくした。捨てようと思ってたやつで良かった。

反省（江口）

係反省

三角巾の使い方など医療係として覚えておくべきことを忘れていたのが良くなかった。

個人反省

朝の準備が遅かった。行動記録をしていなかった。体力が少なかった。

反省（山口）

係反省

装備係として簡易ハーネスの作り方を調べた。しっかり覚えて八峰キレットからの危険箇所
で簡易ハーネスを使えた。

個人反省

定着に同じく体力はまだ十分でないと感じた。特に初日の柏原新道の登り、そして 16 日の天狗ノ頭の直前にある天狗の下りでそれを実感した。運動を習慣的に行うことが課題だ。

- ・テント内で寝るとき配置を考える

- ・朝の行動をもっと早くする

- ・足のマメ、特にかかと部分がかなり改善された。途中テーピングをしたこともあったが、かかとに関してはテーピングを外しても問題なかった。ただ、靴をかなりしっかり結んだにもかかわらず、足の指先、特に人差し指にマメができた。おそらく下りでできたものだと考えられるが、その場合靴の先端に指が当たっているということになる。私としては足の指先にマメができる原因としては、靴ひもがしっかり結べていないか、靴のサイズが違っている 2 点しか考えつかず、かつ靴紐に関しては 2 度のマメができた経験からかなりしっかりと対策

をしたつもりであったためもしかしたら靴のサイズが違うかもしれないのでお店に相談に行こうと思う

- ・デジカメを持っていく
- ・行動記録を録れるくらい余裕を持つ

あとこれは個人の反省ではないけど今年はクマが大量に出没してるみたいで、運良く出会わなかったけれど自分たちの後ろから来たおじさんがクマの情報をくれたりしたので、来年も同じ感じだと熊に遭う確率というのは跳ね上がっていると思う。なので何かしら対策は立てておいた方がいいんじゃないかな～と思った。

18日のスズメバチだけでも素人目ながら巣っぽいなと思った。スズメバチと違って木の根元を利用して地面の中に巣をつくるのが結構あるので注意です。

【8月】夏合宿 南ア北部縦走 反省・報告書

参加者

2年：森（CL）、原、佐藤

1年：鄭（不参加）

行動記録

8/16(土) 小雨のち曇

4:35 甲府駅発

6:00 夜叉神峠登山口

6:15 発

7:05 夜叉神峠小屋

8:30 杖立峠

9:55 葎平

10:20 辻山

10:45 南御室小屋

15:00 夕飯

18:00 就寝

甲府駅→夜叉神峠登山口でバス代 1760 円。夜叉神一広河原間を利用する際は協力金として運賃+300 円。南御室小屋のテン場は通常 1 人 1000 円+1 張 1000 円だが、山岳部であれば張代はかからないそうで、3 人で 3000 円で済んだ。小屋から 10 分程度のところに電波ゾーンあり。

8/17(日) 晴

4:00 起床

4:55 発

6:05 薬師岳

6:43 観音岳

7:55 地藏岳

8:50 高嶺

9:45 白鳳峠

10:45 広河原峠

11:25 早月尾根小屋

15:00 夕飯

18:00 就寝

南御室小屋から薬師岳に向かう途中、何度かザレ場岩場が出現。慎重に歩いた。早月尾根小屋のトイレはテン場利用者の場合チップの支払い不要。前日から同ルートをとる他大学の団体が 16:00 ごろに到着。雑談が耳に入り寝つきは悪かったが、夜中に目を覚ますことはなかった。

8/18(月) 晴

4:00 起床

4:55 発
6:45 アサヨ峰
7:45 栗沢山
8:55 分岐
9:25 仙水小屋
15:00 夕飯
18:00 就寝

出発直後からアサヨ峰まで急登が続く。早めに小屋に到着したので、下流の長衛小屋、北沢峠のこもれび荘、その先の電波ゾーンへも足を運ぶ。電波ゾーンに関してはこもれび荘の張り紙を参照。行ってみたものの電波は通じていなかった※全隊員 docomo。12:00 前に帰幕。仙水小屋のテン場は規模が小さく、最大でも 5 張程度しか張れなさそう。水場で歯磨き粉を使つての歯磨き可能。

8/19(火) 晴

4:00 起床
5:00 発
(仙水-長衛小屋間に荷物をデポ)
5:25 再テン場発
5:50 分岐
6:50 駒津峰
7:50 甲斐駒ヶ岳
8:20 発
9:25 駒津峰
9:50 双児山
10:55 北沢峠
(デポした荷物を回収)
15:00 夕飯
18:00 就寝

アタック装備で行動。甲斐駒ヶ岳の登りでは直登ルート、下りではトラバースルートを選択。甲斐駒ヶ岳の祠の裏？だと特によく電波が通じた。この日も天候が穏やかでよく眠れた。夕飯の際、明日の長い行程に備えてアミノバイタルを摂取した。

8/20(水) 晴

4:00 起床
5:00 発
5:10 北沢峠
5:40 二合目
6:00 三合目
7:00 六合目
7:35 小仙丈ヶ岳
8:35 仙丈ヶ岳
??:?? 大仙丈ヶ岳

??:?? 伊那荒倉岳

11:00 高望池

12:25 横川岳

12:50 野呂川越

13:30 両俣小屋

15:00 夕飯

18:00 就寝

登り下りの繰り返し。小仙丈ヶ岳では電波が通じていた。伊那荒倉岳山頂は看板がなく、いつの間にか高望池に着く。高望池周辺にはテントが張ってあったので幕営可能なよう。野呂川越からの長い下りを経て両俣小屋に到着。川沿いなので虫が多い。この日もアミノバイタルを摂取。

8/21(木) 晴のち曇

4:00 起床

5:05 発

5:45 野呂川越

8:25 三峰岳

9:10 間ノ岳

10:00 農鳥小屋

10:30 発

11:00 西農鳥岳

11:30 農鳥岳

12:05 西農鳥岳

12:35 テント場

15:00 夕飯

18:30 就寝

テント場到着後荷物をテント内に置いてアタック装備で農鳥岳へ。夜は天候が悪化して雷雨となったがあまり影響なかった。水場は 10 から 15 分ほど下ったところにあって結構遠い。就寝前に全体で水分の補給、歯磨きに行った。夕食時に腹痛で食欲が低下し、夜間も何度か目を覚ました。

8/22(金) 濃霧のち晴

4:00 起床

4:55 発

6:00 間ノ岳

7:05 北岳小屋

7:30 発

8:25 北岳

12:16 広河原

出発直後は霧で視界不良であったが、北岳小屋を通過した辺りからはれてきた。北岳から 4 時間弱の下りが続き、膝の痛みから数回休憩をはさんだ。だが昨晚のテーピングのおかげで

幾分か楽だった。下山後は芦安駐車場行きのバスに乗り、白鳳会館で温泉に入ってから駅に戻った。

反省（森）

係反省

現地ではともかく、甲府までは鄭さんに渡す食料は鄭さんの分だけにすべきだった。

個人反省

地図を失くした。

反省（原）

係反省

装備：装備表に不備があった。具体的には今回の縦走に不要なヘルメットが入っているのに必要なサングラスは抜けているなど。確認が甘かった。行程と照らし合わせて吟味することを心掛ける。

SL：同期3人での合宿ということもあり特段SLとしての役割はなかった。ルーフアイの経験が積めてよかったが、体力不足で後ろに気を配る余裕がなかった。

個人反省

精神の不安定さが課題であると感じる。他2人の寛容さにつけ込んで、全体の指揮を下げかねない言動を何度もとった。体力不足や体調不良などの予想される不安要素に対して、事前準備やトレーニングを徹底する。また、下りがかなり遅いのも反省点である。良い歩き方を学び、普段の山行から意識して改善していく。

他係へのお願い

医療→伸縮性のテーピングを加えてほしい

食料→エッセンのチョコをナッツで代替してほしい

反省（佐藤）

係反省

富山から甲府まで、そして甲府から夜叉神峠までの交通は問題なくやれたと思う。定着が中止となって、急遽甲府まで富山駅経由で移動することになったものの落ち着いて行動できた。

個人反省

1～3日目あたりが靴擦れのピークだったが、4日目以降は何故か擦れて痛くなることはほとんどなかった。初日からずっと靴下を二重にしていたのだがそれが関係しているかはよく分からない。

7日間ずっと原さんが先頭を歩いて、自分は3人隊列の真ん中だったので積極的に地図を見ることはなかったが、分かりにくい所では地図を開いて確認するように心がけた。

地図を用意していたのは良かったが、すぐ取り出せるところにコンパスを入れておかなかったのは良く無かった。

最終日の下りで、けっこう石がゴロゴロしている箇所であるにも関わらず駆け降りてしまった。ゆっくり降りるのがなんとなく億劫だった。危険なので最後まで気を抜かずに下るべきだった。

【9月】北鎌縦走合宿 反省・報告書

参加者

3年：斉藤（CL）

2年：森

行動記録

1日目(9/2) 晴れときどき霧

0812	上高地着
0833	同発
0927	明神館
1024	徳澤ロッジ着
1132	横尾山荘着
1250	槍沢ロッジ着
1350	ババ平着
1430	水俣乗越分岐（大曲）着
1440	同発
1540	氷河公園分岐着
1650	ヒュッテ大槍分岐着
1730	殺生ヒュッテ着
1930	就寝

当初は下界で3日目に晴れが来る日に出発する予定であった。しかし、5日後ほどまで天気を見たところ完全に晴れとなる日は当分来なさそうであることが分かった。そのため、3日後の天気が雨のち晴れときどき霧のような微妙な天気であったが、出発することにした。前日の時点で7時頃上高地着の松本-上高地 直行便は既に売り切れていたため、そのひとつ後の新島々経由の便で上高地に向かうことにした。ヒュッテまでの道は思いのほか長く、途中で斉藤が少しバテてザイル等を森に分けることもあったが、無事ヒュッテに到着した。全体を通してこの日が一番きつく、過酷であったように思う。

2日目(9/3) 晴れときどき霧

0430	起床
0550	殺生ヒュッテ発
0654	水俣乗越着
0920	北鎌沢出合着
1127	北鎌のコル着
1149	同発
1310	天狗の腰掛手前の幕営地着
1900	就寝

9/2の16時過ぎに9/3-4の天気を確認したところ、3日が霧ときどき雨、4日が午前中はある程度晴れて午後は天気が崩れるという予報であった。北鎌のコルから槍ヶ岳山頂までは必ず晴れて通過したかったため非常に迷ったが、3日は稜線まで上がり込むことがメインで、最悪雨が降っていても耐えられ、4日は午前中のうちに行動を終わらせれば行けそうだったとい

う判断から殺生ヒュッテを軽装備で出発することにした。雨が降ること、またテントが思った他小さくまとめられたこともあり、ビバークを諦めてテントを持っていくことにした。しかし当日になってみると、空は晴れ、ガレた水俣乗越-北鎌沢出合-北鎌のコルも問題なく通過することができ、それでも少し余裕があったためコルの先の天狗の腰掛あたりの開けた場所まで進むことができた。この日は予報に反して 1 日天気良好であった。

3 日目(9/4) 霧のち雨

0400	起床
0510	テン場発
0635 (0550)	独標着
0955	槍ヶ岳山頂着
1015	槍ヶ岳山荘テントサイト着
1900	就寝

前日テン場にて幸い電波が通じたため、予報を確認したところ、前日とほぼ変わらず、9/4 は午前中が晴れときどき霧、午後から雨模様というものだった。そのため、日の出と同時に出発すれば降られずに進めるだろうという予想のもと、当日は 5 時過ぎに出発した。当日は終始霧がかかり、展望はなかったものの、結果的に降られることもなく 5 時間ほどで槍ヶ岳に到着した。当初の計画では 10 時間を超える行動を予想していたが、前日にかなり先まで進んでおいたおかげで短時間で行動を終えることができた。到着後、殺生ヒュッテあたりにデポしていたザックを回収するのに 1 時間ほどかかったが、食事までにはある程度余裕があり、そこまでバテることもなく北鎌尾根アタックを終えることができた。書き忘れていたが、独標を巻いたあと、我々は道に迷った。迷った結果、我々が張り付いていたガレた岩峰をまず登り、独標まで戻ることになった。独標後の岩峰の直登は非常に危険で、1 歩間違えば滑落し谷底に落ちるかもしれない危険な登攀であった。結局独標まで辿り着くことができ、独標直登のルートで北鎌尾根登攀を続行した。そのため、行動記録には独標を巻いて通過した 5:50 の時刻と戻って頂上にたどり着いた 6:35 の時刻を記載している。

4 日目(9/5) 雨

沈殿

9/3 ごろから 5 日の天気が崩れるのは予想していたが、案の定前日の夜から雨模様となった。台風も近づいていたためおおあれも予想したが、風はあまり強くなく、14 時頃には雨も止んだ。

5 日目(9/6) 晴れ

0400	起床
0510	テン場発
0548	中岳着
0600	同発
0641	南岳着
0924	北穂高岳着
1129	穂高岳山荘テントサイト着
1800	就寝

この日は快晴であった。元の計画では 10 時間ほどかかるとされていたが、6 時間 20 分ほどで穂高岳山荘に到着した。今回ヤマレコの 0.8 倍のコースタイムを参考にしたが、この日は長く設定されすぎており、参考にならなかった。今回はバリエーションルートを通るということで、ヤマレコを採用したが、次回以降は別のコースタイムを参考にすべきかもしれない。また、一日快晴であったため、沈殿日で濡れた装備をここで乾かすことができた。時間もあったため、睡眠は少し長めにとることとし、18 時就寝となった。

6 日目(9/7) 晴れときどき霧

0400	起床
0505	テン場発
0535	奥穂高岳着
0640	ジャンダルム頂上着
0730	斉藤負傷
1045	西穂高岳着
1145	西穂独標着
1230	西穂高岳山荘着
1315	新穂高ロープウェイ着

この日の前日の天気予報は、午前中は晴れるが、午後になると霧ときどき雨といった内容であったため、午前中に行動を終わらせるよう、日の出とともに出発した。この日は晴れていたものの、風が強く、ジャンダルムや馬の背の通過もかなり危険であった。当初ジャンダルムを直登することも考えていたが、風の状況も鑑みてやめることにした。無事ジャンダルムに到着し、ジャンダルムから天狗のコルに向かっている途中、ガレた岩場をトラバースしている際に斉藤が岩につまずいて、支えとして持っていた大岩が浮いていたために崩れて、左手が下敷きとなってしまった。最初に近くのいた登山客に手伝ってもらって岩の除去とザックからの解放をし、合流した森とともに傷の応急手当を行った。手は多少動くが、岩を掴めるほど力が入る状態ではなかったため、救助やエスケープルートで降りることも考えたが、天狗の頭の直登を右手のみですることが出来たため、これ以上の登攀をないと考え、そのまま進むことにした。その後時間はかかったものの、西穂高岳、西穂独標までの険しい道を進むことができ、予定通り新穂高ロープウェイから下山できた。結果的には成功したものの、天狗の頭でそのまま進むことに決めたのは判断ミスであったように考える。ガレていたとはいえ、天狗のコルから天狗沢経由で降りる方が安全だったはずである。CL であるにも関わらず、冷静な判断に欠いていたように思う。

下山後パーティーは解散し、9/8 斉藤は岐阜県の病院に行き、そこでは骨折はないと診断を受けた。その後福岡まで移動し、異変を感じたためその日の夕方に福岡の整形外科に行き、診断を受けると骨折していることが判明した。骨折の状態を鑑みて手術することになり、9/12 に手術を受けるため 9/11 から病院に入院した。9/12 に手術を受け、9/22 に退院した。

反省（斉藤）

係反省

個人反省

全体としての反省点はまず、常に行動が遅かった点である。登山の休憩中、自分が休憩しすぎて出発が遅れる、朝ゆっくり準備して出発が遅れるなどの自体が多々発生していた。今回は2人であったこともあり、気が緩んでいたのかもしれないが、常に集団行動であることを意識して行動するよう心がける。次に今回の合宿で自分がシュラフカバーを持っていないことが判明したことである。今回は何とか1人用ツェルトで代用したが、次の合宿までには買っておく。

反省（森）

係反省

斉藤さんにほとんど任せた。

個人反省

齋藤さんが負傷した以上、天狗沢から降るべきだった。